

事業番号	09 03 05	事業改善シート(令和3年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	農業大学校運営事業	部局	農政部	課・室	農業技術課		
		実施期間	T2 ~	E-mail	nogi@pref.nagano.lg.jp		
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)							
8つの重点目標	⑥様々な人の労働参加を全国トップに						
総合的に展開する重点政策	1-3 高等教育の振興による知の拠点づくり 2-6 郷学郷就の産業人材育成・確保						

## 1 事業の概要

事業の現状・ 目指す姿 (予算編成時) 及び実施内容	<b>【現状】</b>
	○農業教育の拠点として、農業技術の習得と経営改善に対応できる能力を備えた農業の担い手を養成しており、令和2年11月2日現在、農学部で117人の学生が学んでいる。 ○令和元年度卒業生は自家就農や農業法人への就職、農業協同組合、農業関連企業に就職し、多くの卒業生が本県農業の振興のために活躍している。 ○平成26年度からは、企業的農業経営体の育成を目的とした実践経営者コースを開設したほか、農業経営コースの農家実習の拡充(24日→45日)、外部講師の充実等、農大全体の就農率向上のため、農大改革を進めており、就農率は35.4%(H26)から55.6%(R1)と向上している。 また、平成30年度から農産物輸出を見据え、総合農学科でGLOBAL GAP取得支援を含むGAP講義を開始し、令和元年度からは先端技術に対応できる人材を育成するため、スマート農業に関する講義を開始している。
	<b>【目指す姿】</b>
	○理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により、農業技術の高度化・経営の専門化に対応する知識・技術の修得が進んでいる。 ○寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により、他者との協調・自己の確立等の社会性が涵養され、21世紀の農業・農村を担う優れた人材が養成されている。
	<b>【実施内容】</b>
	○農大施設整備、農業に関する実践的な講義の実施、農業試験場での実習を通じた技術修得、里親前基礎研修等を通じた新規就農者の技術力向上研修の実施

指標の状況及び目標値 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし、—:数値なし]									
No	成果指標	単位	R1年度	R2年度	推移	R3年度	推移	R3年度目標値	達成状況
1	農学部卒業生就農率	%	56	51	↓	53	↑	67	未達成
2	研修部けん引免許取得率	%	99	98	↓	98	→	98	達成
3	研修部大型特殊免許取得率	%	100	100	→	99	↓	99	達成
4									
5									

区分(単位:千円)	R1年度	R2年度	R3年度
前年度繰越額			
当初予算額	73,403	72,900	69,622
補正予算額			10,989
合計(A)	73,403	72,900	80,611
うち一般財源	43,750	45,958	43,504
決算額(B)	70,206	68,133	67,671
職員数(人)	30.0	30.0	30.0

成果指標及び目標値の設定理由	1.本県農業を担う人材の育成と就農者の確保を促進するため、農大改革の主要目標である「農学部卒業生の就農率向上」を成果指標に設定。 2.研修部における農業者の実践的技術の向上を図るため、「受講者免許取得率」の向上を成果指標に設定。 3.研修部における農業者の実践的技術の向上を図るため、「受講者免許取得率」の向上を成果指標に設定。
達成状況の分析	1.農業法人等合同説明会の開催や先進農業者からの講義の実施などにより、農業の魅力がPRしたことで就農率が向上したが、将来的には就農するものの、一旦は農業関連団体等に就職を希望した学生が一定程度あったため、目標を達成できなかった。 2.研修生への丁寧な指導により、研修部のけん引免許取得率は、目標を達成した。 3.研修生への丁寧な指導により、研修部の大型特殊免許取得率は、目標を達成した。

主な取組	○AI、ICT、ロボット技術等のスマート農業に関する授業を充実強化 ・農機具メーカーとの連携協定によるスマート農業の講義を開講し、最新の知見を教授 ・研修部における新規就農者を中心にスマート農業の導入推進を強化するため、令和3年度補正農業教育環境整備事業により、研修部に環境制御型パイプハウス及びラジコン式草刈機を整備(R4繰越)  ○新規就農里親前基礎研修、就農体験研修、農業機械利用技能研修等の開催 ・新規就農者を養成するため、「新規就農里親前基礎研修(通年)」や「就農体験研修(4回)」の実施 ・就農希望者等の大型特殊自動車及びけん引免許取得を支援
------	---

## 2 今後の事業の方向性

	課題等	今後の方向性
今後、事業をどのようにしていきたいか	卒業生の就農率は、H28年度以降は50%以上を維持しているが、人口が減少する中、長野県農業の人材育成機関として、県内外からの意欲ある学生の確保と就農率の向上が必要。	先端技術であるスマート農業の講義及び実習の充実や外部講師による実践的講義の拡充、みどりの食料システム戦略など情勢を踏まえた魅力的なカリキュラムにより、県内外からの意欲ある学生確保と就農率の更なる向上を目指す。

事業名	農業大学校運営事業	部局	農政部	課・室	農業技術課
-----	-----------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算	R3年度 決算
1	農業大学校運営費	47,914 千円	48,949 千円	46,281 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(実績)	
1	農業大学校運営費	直接	総合農学科では、先端分野であるスマート農業の講義・実習を行った。平成26年度から新設した実践経営者コース入学生に対して、より実践的な講義や実習による農業に関する知識と技術の修得教育を実施した。	

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算	R3年度 決算
2	実科・研究科費	5,945 千円	6,064 千円	8,193 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(実績)	
1	実科・研究科費	直接	生産基盤を持つ農家出身者を主体に、農業関係試験場での実習を通じた栽培技術の習得及び就農促進のための教育を実施した。	

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算	R3年度 決算
3	研修部費	10,207 千円	7,171 千円	9,919 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(実績)	
1	研修部費	直接	里親前基礎研修や農業機械技術習得研修を通じた新規就農者の技術力向上のための研修(大特8回、けん引4回)を実施した。	

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算	R3年度 決算
4	農業大学校施設整備費	6,140 千円	5,949 千円	3,278 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(実績)	
1	農業大学校施設整備費	直接	農学部教室の空調工事を実施した。	